

5 指宿地域の特色を生かした稼げる果樹産地育成

指宿の特色を生かした稼げる果樹産地の育成

成果の要約

- 1 マンゴーでは、ターム水溶剤の活用により、新梢抑制効果が確認された。
- 2 施設不知火では、見本樹を設置し、夏季のかん水、果実肥大促進指導により、減酸が進み高品質果実生産に繋がった。
- 3 マンゴー及びカンキツを栽培している青年農業者に、関係機関と一体となってカウンセリングや基本技術指導を行うことで、青年農業者のビジョン達成への意欲が高まった。

1 対象

- (1) JA いぶすき熱帯くだもの部会 8 戸
マンゴー青年 4 人
- (2) JA いぶすき開聞果樹部会 6 戸
カンキツ青年 1 人

2 課題を取り上げた理由

- (1) 指宿地域では、かごしまブランドのマンゴーや施設不知火などのカンキツを中心に栽培されており、マンゴーでは、着果負担や新梢不充実による減収、天敵利用園でのチャノキロアザミウマやカイガラムシ被害果の発生、施設不知火では、単収や果実品質の向上が課題となっており、高品質果実生産技術の確立が必要となっている。
- (2) 非農業系学校出身青年の基礎・専門技術と問題解決能力の習得が必要となっている。

3 活動の内容及び成果

- (1) マンゴー産地の育成
ア 講習会、巡回指導
講習会、巡回を通じて、安定生産、品質向上に向けた生産技術を支援した（写真 1）。



写真1 マンゴー栽培講習会

イ 青年農業者の育成

青年農業者については、関係機関と連携しカウンセリングを行った結果、将来のビジョンが明確になった。さらに講習会を定期的開催することで、高品質果実の安定生産に向けてベテラン農家も青年農業者もお互いに情報交換が活発化し栽培意欲が高まってきた（写真2）。



写真2 マンゴー青年農業者への支援

ウ ターム水溶剤の活用

新梢を抑制し、着花を安定化させるため、ターム水溶剤を活用した実証を調査（写真3）した結果、新梢発生への抑制効果が確認できたことから、講習会でターム水溶剤について指導した。



写真3 新梢抑制剤効果調査

エ アザミウマ類の発生対策

アザミウマ類の発生に対処するため、開花期前から天敵導入、定着を支援した。

また、近年、既存農薬に耐性がみられるアザミウマ類が発生しているため、新規農薬の実証ほを設置し調査した結果、既存農薬より効果が高かったことから、次年度の栽培暦に反映し講習会で指導した。

(2) カンキツ産地の育成

ア 講習会、巡回指導

講習会、巡回を通じて、安定生産、品質向上に向けた生産技術を支援した(写真4)。



写真4 カンキツ栽培講習会

講習会前には、設置した見本樹の着果数や果径、病害虫の発生状況、果実品質を調査(写真5)し、講習会時の相互検討による生産技術の向上に役立てた。

特に、夏期のかん水や早期摘果の重要性について指導した結果、課題となっていた無加温不知火の減酸もスムーズに進み食味も概ね良好な状態に仕上がった。



写真5 定期的な見本樹の果実調査

イ 後継者の青年に対し幼木タンカンの生育不良問題について、重点的に指導した。

掘取調査等を実施した結果、根傷みによる樹勢低下が確認されたため、簡易明きよやソルゴーによる防風対策を実施した結果、樹勢もやや回復傾向になった(写真6)。



写真6 タンカン生育不良対策検討と防風対策

ウ 研修会

カンキツ生産者は全員管内及び管外研修会(写真7)も積極的に参加するなど高品質果実生産への意識がさらに高まった。



写真7 管外及び管内研修

4 今後の課題

- (1) マンゴーの高品質果実の安定生産
- (2) 不知火の高品質果実生産
- (3) 青年農業者の育成

5 担当した普及職員(○はチーフ)

○川畑